



勝林寺報

極重悪人唯称仏

我亦在彼攝取中
大悲無倦常照我

煩惱障眼雖不見

お仏壇の前で毎日お正信偈を読みなれていると、「極重悪人」という言葉も違和感なく、するりと読み過ぎてしまします。しかし、一般社会の中で「極重悪人」と聞くと、随分と極悪非道な犯罪者として特別な人がイメージされます。私たちは社会生活の中で、「善」と「悪」を判断し、できる限り「善」を増やし、「悪」減らしていくことを努力します。しかし、それぞれの人によつて、立場によつて、もつと言えば存在の個別のありようによつて、「善」と「悪」の判断は必ずどこかでズレができる、紛争が生じます。国家間での紛争は戦争になり、利害が対立する企業間での競争はつぶし合いになり、夫婦間での紛争は離婚騒動になり、意見の違いが学問紛争と、社会の中でも言い争いがつきません。それともこれらもみんなこちらの「善」の主張と、あちらの「悪」の指摘の攻防です。日常生活の中での言い争いがこじれる裁判紛争になるとあります。裁判ではお互いが自分の側の「善」を主張し、相手方の「悪」を指摘し、時によつてはその弁論技術にたけた弁護士を立てて、激しく主張し合います。悪を指摘する検事は犯罪者の出口を緻密につぶしていきます。逆に弁護士はどんな罪を犯したものであれ、「一寸の虫にも五分の魂」、見る角度によつての良いところを見つけ出し、巧みに抜け道を見つけ出します。お互いの主張を聞いて裁判官が判断するのですが、100%どちらかが悪であるということは



ないようと思われます。しかし、日本でまだ「極刑」としての死刑があるといふことは、人間が出口の一つもない100%の「悪」の判断をしているということなのでしょうか。とにかく「極悪人」とは、弁解のしようのない、言い訳の余地のない、出口のない牢獄に閉じ込められた、そして死をもつて償う以外に方法のない罪人のことなのです。

私たちは毎日お仏壇の前でお正信偈をあげ、「極重悪人唯称仏」とすんなりうたい進んでいきます。しかし親鸞聖人は「我がこと」として「極重悪人」をとらえよと教えられています。いくら弁護士さんに頼んでも一つも弁解の余地のない、牢獄を抜け出す一ミリの隙間もない、極刑を免れる手段のない「悪」の自分であるとの自覚です。だからこそ、ただただ、仏の名を称す。ただお念仏させていただくのです。

社会の中での倫理道徳的善悪と、宗教的善悪は比較できないかもしれません。仏法の判断と世法の判断は次元が違うかもしれません。しかし私たちの命は究極的に、いくら自らの「善」をかたくなに主張し、相手の「悪」を意地悪く必死に非難して言い争つても、老いそして病みそして死んでいく、出口のない極刑を宣告された「極重悪人」なのです。

いま世界は新型コロナウイルスという未知の危機にさらされています。日々状況が変化し、情報が錯綜しています。人類として最善の努力と知恵を絞つて対応していくなければなりません。と同時に、今だからこそ、ただ念佛一つと心を決め、仏の道をみんなで共に歩んでいきましょう。

(文責 住職)

春の彼岸会法要

勝林寺に春を告げる「彼岸会法要」を左記の日程でお勤めいたします。誘い合わせてお参りください。

日時 三月二十日（春分の日） 午後二時より

内容 お勤め「正信偈」 法話 勝林寺住職

日時 三月二十日（金） 勝林寺婦人会 総会

内容 年に一度、仏教婦人会会員が集まり、物故者を追悼し、心豊かにさせていただく作品や演奏をおこなうと、親交を深める機会です。ぜひ、お参りください。

日時 三月二十一日（火） 西池希里 大学卒業式

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話 アトラクション、作品展など

日時 三月二十二日（土） 平野孝幸宅 七・三回忌

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月二十三日（日） 清水あい子（坊守母）一周忌

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月二十四日（月） 出石但東仏教會

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月二十五日（火） 花まつり 打ち合わせ会

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月二十六日（水） 西池希里 大学卒業式

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月二十七日（木） みのりを聞く会

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月二十八日（金） 富鳴小好宅 七回忌

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月二十九日（土） 出石組 組内会

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月三十日（日） 大石英明宅 忌明法要

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月三十一日（月） 兵庫教区 教区会

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月四日（火） 西池入海 大学卒業式

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月五日（水） 衣川正之宅 一周忌

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月六日（木） 勝林寺婦人会 総会

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

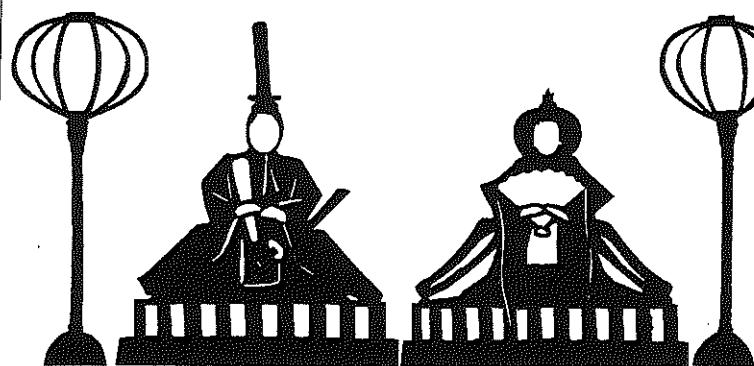
日時 三月七日（金） お詫び

内容 報告総会、物故者追悼法要、記念法話

日時 三月八日（土） 先月号の記事の中で、総代様を紹介させていただきましたが、「檀見 博文様」のお名前を落としておりました。お詫びして訂正いたします。

勝林寺 ホームページが開設されました。
皆さん見てください。

勝林寺.net で検索してください！



三月 勝林寺 予定

死んだらどこへいくのか

今日は朝から雨が降っています。春雨です。

その雨に、庭の「さくら」のは花が散つていきます。この雨は、どこからきて、どこへ行くのか。空にたどよう雲が、やがて雨となつて落ち、その水があつまつて河となり、海に注ぎます。

そしてその海水が蒸発して雲となります。かくして水は、無限の過去から無限の未来に向かって、雲となり、雨となり、雪となり、千変万化しつつ流れています。有名な日本画家の横山大観に、「生々流転」という大作がありますが、そのような水の生涯を描いたものです。

仏教では、それについて、人間はどこからきてどこへ行くのか、まったく分からなければなりません。ただひとつ確かなことは、私は「いま」「ここ」に生きている、という事実だと教えます。そのことは一滴の雨が、どの雲から生まれ、またそれがどの河に流れいくかは、まったくわからぬけれども、「いま」「ここ」一滴の雨の中に、その無限の過去と無限の未来が、すべて宿っているようなものだということです。

私たちの生命もまた、やがては死んでいく生命ですが、それはちょうど一滴の雨に無限の過去と未来がおさまっているように、私の生命もまた、無限の過去と無限の未来を包んで、「いま」「ここ」に存在しているのです。そして親鸞さまの教えによりますと、その生命の中には、無限の過去から積み重ねてきた罪深い真つ黒い心、美しく輝く真つ白い心が、交差して宿っているといいます。それは、雨というものが恐ろしい暴風雨となって、山の土砂を流し、多くの家を

倒壊させることがあります。またやさしい慈雨として、美しい花や、さまざまな農作物を育ててくれるものでしよう。

それと同じように、私の生命の中にもまた、

恐ろしい地獄の鬼の生命と、美しい仏の生命とが、まったく矛盾対立しながら同居していると

いうのです。世の人々の中に、親を殺し子を殺すような鬼の心を宿した人もいれば、地震や津波の時に、自分を犠牲にしてまで、他人の生命を守った、美しい心の人がいるのは、まさしくそのことを物語っているわけでしょう。

親鸞さまの教え、真宗とは、そういう私の生命の中に宿る、鬼の生命と仏の生命について、深く思いあたり、「めざめ」（信心）で、その鬼の生命を厳しく制御しつつ、仏の生命をいつそう育てていくことを教えます。『阿弥陀経』に、「もろもろの上善の人は、ともに一處会う」（信心

に生きる人は、死んでもまた会うことができると説くのは、そういう仏の生命にめざめ、それをよく育てた信心の人についていうわけです。もしその仏の生命にめざめることもなく、鬼の生命を宿したままの人は、死んだら地獄におちていくしかありません。

親鸞さまの教え、真宗念佛の道とは、私の生命に宿る、仏の生命に「めざめ」（信心）で、それをよく育てつつ生きしていくことを教えるもので、そういう人は、浄土への道を生きているのです。だからこそ、いつ死んでも仏になれるのです。

兵頭さんは「我々の悩みとは」と問われています。それに対し、安田師は次のように答えられています。「法は完全であるが、信心という問題になると割り切れるものではない。すかつと割り切れたということはない。本願を疑うということは、どういうことかといえば、自分を放さない、我です。我を頼る。本願を疑う疑いのものは、仏の智慧というものがないためにはつきりしない。そのために自分を頼る。本当のことわからぬと、本当でないものを本当にする、自分を捨てない。自分を本當にする。それが我執というものは根が深い。その根が深いといつても、根が深いといふことも信仰によって教えられていく」

今月の法語を逆に言うと「本当のものを知らされると、本当でないものが見えてくる」あるいは「本当のものを知らされると、本当でない自分が知らされる」という意味になります。

如來の智慧の光明に照らされることによって、闇の中にいる私に気づかれます。人間の分別・知識によつては、眞実の世界は見えてきません。如來の光明・名号のはたらきによつて、眞実信心を獲得することができるのです。

（「月々の」とは「より抜粋」）

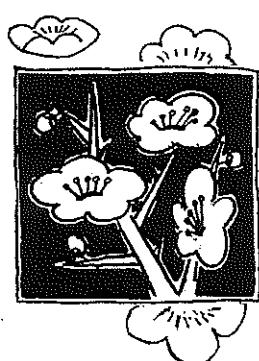
法語カレンダー三月

本当のものがわかるよどすん

本当のものがわかるよどすん

二月に入り、ようやく雪を見る」とができました。もう何十回も見ていました。うれしくて久しぶりの雪景色を写真に収めてしまいました。何

でいい降りたての雪の上に、自分の足跡をつけてみました。そんな「いい気持ち」を味わった朝の散歩から帰つてくると、すっぽり雪に覆われた若院の車が目に留まりました。いつもなら通り過ぎる私の心に「雪を落としておいてやる



（信楽峻磨遺稿法語集より引用）